



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/6 (月)	+ 800	▲ 1,300	▲ 500	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP買入 ▲ 100 社債等買入 ▲ 100 国債補完供給 + 1,200	国債買入 + 11,500	日: 黒田日銀総裁、 共同通信社「きさらぎ会」で講演
6/7 (火)	+ 1,000	トン	+ 1,000				日: 景気先行CI指数 (4月) 景気一致CI指数 (4月)
6/8 (水)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (30年)	共通担保 ▲ 5,300		日: GDP (Q1) 欧: ユーロ圏GDP (Q1)
6/9 (木)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000				1-0圏: ECB政策金利発表
6/10 (金)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000	国庫短期証券 発行・償還 (6M) 流動性供給			米: CPI (5月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初547兆7,100億円から始まった。2日に交付税交付金払いがあったが、同日の税保険揚げ要因や1日と3日の国債発行による財政等要因により、週末には536兆7,400億円となった。
無担保コールON物は先週と比較すると、弱含む展開となった。積み期序盤に積極的に調達を行ったことから、今週に入り調達を控える金融機関が徐々に増加した。そのため、同加重平均金利は週初30日の△0.022%から日々緩やかに低下して、週末となる3日には△0.039%となった。
ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.035%~△0.020%の水準で出が見られた。
来週の主な予定は、4月の景気先行指数・景気一致指数の公表 (7日) Q1のGDP (8日) などがあり、海外ではECB政策金利の公表 (9日) や5月の米CPI (10日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.060 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

月末初物となる週初の足許GC取引は△0.09%近辺で出会い、週半ばまで同水準で推移した。新しい月に入った週後半はレートが上昇し、短国3Mの入札が行われた6日受渡しの取引では△0.08%近辺の出会いとなった。
SC取引は2年414~436回債、5年136~151回債、10年333~366回債、20年164~180回債、30年65~74回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.005 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約4,000億円で、週間償還額 (約2,700億円) を上回った。発行市場は、石油や電力等で大型の発行が実施されたものの、週を通して案件は少なく、やや落ち着いたマーケットであった。発行残高は先週末の26兆650億円から6月2日時点で26兆3,791億円に増加した。発行レートは0%近辺での出会いであった。
来週の週間償還額は、約4,200億円となっている。発行市場は、今週同様落ち着いた展開を予想する。一方で、足元の円安進行やエネルギー価格の高騰を背景に、一部の企業でCPによる資金調達機会の増加も見込まれる。発行レートは0%近辺での出会いを予想する。

<TDB>

6月3日の3M1084回債の入札は、最高落札利回り△0.0882% (前回債△0.0982%)、平均落札利回り△0.0950% (前回債△0.1050%) となった。
来週は6月9日に6M、6月10日に3Mの入札が予定されている。